

社債レポ市場の整備に向けた課題対応工程（マイルストーン）※1

		フェイズ1に向けて	フェイズ1【黎明期】	フェイズ2【拡大期】	フェイズ3【成熟期】	
想定される取引	取引参加者	貸し手	機関投資家（信託、アセマネ、生損保、銀行等）（※国内のみを想定）、証券会社	機関投資家（信託、アセマネ、生損保、銀行等）（※国内のみを想定）、証券会社	機関投資家（信託、アセマネ、生損保、銀行等）（※海外を含む）、証券会社	
		借り手		証券会社	証券会社、ヘッジファンド	証券会社、ヘッジファンド
	取引目的			SC取引※2	SC取引、GC取引	SC取引、GC取引
	担保の種類			現金担保（非証券担保）	現金担保（非証券担保）	現金・証券担保
課題	フェイル回避やフェイルへの対応		<p>①フェイルチャージの導入</p> <p>【主体】インフラWG等「一般債の振替決済に関するガイドライン」及び「フェイルチャージの実務に関する取扱指針」等の見直しについて検討</p>		<p>⑤レンディング（証券貸借）機能の導入</p> <p>・社債市場の規模がレンディング機能を賄える程度に十分大きくなった段階で、本サービスのニーズに関して調査（※3）。 ・ニーズが確認された場合、本WGを含め幅広い関係者において、本サービスの主体、具体的機能等について検討。</p>	
	ネットィング決済		<p>②ロール時のネットィング決済の導入</p> <p>【主体】取引参加者、日証協、証券保管振替機構 レポ取引のロール時の疑似的なネットィングの導入について協議・検討</p>		<p>⑥清算機関の導入</p> <p>・社債市場の規模が大きくなった段階で、清算機関を用いたネットィングへのニーズに関して調査（※3）。 ・ニーズが確認された場合、本WGを含め幅広い関係者において、社債を清算集中制度の対象に含めるべきか等も含め幅広く検討。</p>	
	担保（取引対象債券）の管理			<p>③担保適格性に係る枠組みの構築</p> <p>・SCレポの利用が一定程度確認された段階で、市場関係者に対し、GCレポのニーズを確認（※3）。 ・ニーズが確認された場合、本WGを含め幅広い関係者において、海外事例等を参考に担保適格性について検討。</p>	<p>④担保管理サービスの導入</p> <p>・GCレポの利用が一定程度確認された段階で、市場関係者に対し、本サービスのニーズに関して調査（※3）。 ・ニーズが確認された場合、本WGを含め幅広い関係者において、本サービスの主体、具体的機能等について検討。</p>	
	その他（市場参加者間における認識の共有）		<p>①契約書等の整備</p> <p>【主体】インフラWG等 債券貸借取引（現担レポ）及び新現先取引を対象に必要な規定を契約書等に追加</p>			

※1 2022年4月時点における課題対応工程のイメージであり、今後の検討内容次第では、変更となる可能性がある。

※2 フェイズ1においては、発行規模が大きく、十分な残存期間が存在する流動性の高い銘柄。

※3 日証協において、定期的に社債レポ取引についてモニタリング。一定程度の取引の増加が確認された段階で、市場参加者への各サービスに対するニーズに関してアンケート調査を実施することを想定。